



年
隨
業

歲

三

4曾5
560
2



門 1 冊 5
號 560
卷 2

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 廣, 濟, 氏, 藏, 書, 記]



廣濟氏
藏書記



隨筆壬戌三

官とくふふいふはしつちわりともたじ。皇網の
つよもつをりてふべきはふ之本羽文粹のなつて官
三品の異見三箇條の中よ。請停賣官事といふ條あり
て方今授任之道非不正黜陟之規非不明然時有
以財官又矣公家以為助國用衆庶以為輕天工云々
とていふる。これといふる官といふていふるわん
類聚三代格とていふ昌泰四年格は播磨國解海調
庸租稅國之大事也此國百姓過半是六衛府舍人
初府牒出國以後□私宿御不倫謀及領作曰疇又



延元二年の格よ河内三河但馬等國解備此國久表流
幣。□多困窮就中頗有資産可堪後事之輩既帶
諸衛府舍人諸衛府舍人の多かり多しハ賣れざる故なりん
中らうより法國受領の改修より庄園多くありて
公田減し調庸租税より少くなりて成功成功と
事してきより成功と造宣造寺何れもあれ條附の
大事の公用あり私物私物としてその事と成し功を
立ぬ官より事あり本朝文粹より大江迄御前下の
兵儀等とゆり快ふ云匡衡為尾張守之時撫民治



國致合期之勤有功無過之由諸卿僉議已畢又依
官符宣旨修造國分二寺神社諸定額寺十二箇
所不申請官物別進造伊勢豐受宮之料米五百斛
造宣陽殿料准額十餘万束依官符宣旨蔵人所召
所交易進絹二百餘疋等不奉用公帳皆是諸國吏
之謗功称雄之事也一めと受服をく何となく土木の功となくめさるゝ
物とせしむるに依りてはわて熟國温職をくやむた
川きよせしむるに依りてはわて熟國温職をくやむた
遂て多くなりん

を得てし募らぬも亦かりくはきて公河院
 鳥羽院とのほ所をてか必嗣とてか事として期野
 牽載尔のゆつらゆ状もも定^テきあす。秀野尉諸
 日三分と無負教として成功と募らるるや
 一も公河院のわらわをいひまを考えたり。後白
 河院とのほねさるるわらわらるる。一人二人は
 かりくも教としてまはるる。い法はわらわらるる。かり
 一。文治のころハを員教する事勿後之寛元の此ル
 かりてと。撰するも。いふくもわらわ寛元三年の平戸
 記亦十三度の除目の可書との次その度こに四府

の尉めのく十二三人。位も。又治部丞五人一
 所は他き。一。事。を。い。ひ。ん。あ。ま。り。な。る。ゆ。え。
 うの記。叙^ニ負尉以下。量。を。教。を。い。ひ。公。事。毎。度。被。
 行成功之。□。任。治。知。未。世。之。至。行。可。悲。も。あ。ら。ん。
 その比の有職も。嘆。れ。り。も。な。る。れ。を。除。て。ハ。生。
 財のそさる。り。い。は。る。ハ。法。國。よ。お。存。地。頭。と。お。り。い。
 一。國。の。賦。役。大。く。无。実。も。な。り。果。て。國。役。と。成。
 功。を。も。て。い。ひ。一。條。尉。の。事。を。い。ひ。い。は。り。い。は。り。い。は。り。
 人。も。も。綱。野。牽。載。よ。い。ひ。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。
 へき。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。

千とやうの事なるとの元量と殺の成功よりなり
 外事官より徳國より富家の百姓は慕ふる物
 千れんきせふすと正官里長の香うり一若もが小
 公六位上左衛門尉とありてらやそくいそと踏さ
 めりくハいといくせうとてやうき踏さしといたり
 多しきより其成功の殺多くせんとそのつう物
 多くハもさぬやうとあり物多くもさぬ他人の殺
 いやく坊て正府の尉諸司の三分天下よりら
 たりこれ所の俗名よき成功の物のト一殺負丞く八百
 是を尉尉ハ曰百是法日の三分と二百是と過すといふり

葉黃記よとてあり。世の價はと財の百倍も過れ
 と。これとふあさきといさりの物めはくこなり。
 元弘建武の比より物のとけ事とて守はく天下と
 みるはよとて皇威浩ふよ及守りの豪富の事。殺代
 成功せしん是世のなより一まふ某左衛門某を馬
 するり一と云革やじ財をてはやりのト弘のさか
 へき財をよありねと。
 と財の俗名よりよとの人の実名なりも他カより
 呼へきののさしねと業はと成功との二つをて称
 へ一物と云業はといふを見さる所といひしを

たりといひ。三。四。づいなるのきよよふの十より上余
 一余二をともといひたりし。と首物洛よ。其國二平維茂
 ト云者アリケリ。此ハ丹波守平貞盛ト云ケル兵ノ
 弟ニ武蔵權守重成ト云カ子。上総守兼忠カ太郎也。
 シレヲ曾祖伯父貞盛カ甥并甥子ナトシメナ取集
 メテ養子ニシケルニ此維茂甥子ナルニ。然中ニ七年
 若カリケレハ十五郎ニ立テ養子ニシケレハ。字ヲ餘五
 君トハ云ケル也とあり。真田子一淺利子一をともす
 といふ。これ必ずしも十條子といふはなれ。余五の字
 たり子細ありや。えん。それ。証すし。尔。字。家。十。

は兄とて五郎ハ者なることいひあれ。よめ子一も。紫河
 のをれ。いふもあん。成功。上條。いふ。こと。
 おと。い。て。官。府。の。尉。諸。司。の。三。合。よ。あ。り。て。その。官。名。
 を。た。の。う。て。う。て。その。族。く。よ。太。郎。二。郎。を。傳。へ。つ。
 あ。り。て。他。氏。他。族。と。あ。り。て。も。は。し。ぬ。を。り。も。何。事。も。
 つ。た。て。も。ま。り。き。い。は。し。き。故。その。上。よ。姓。の。一。り。を。
 きて。後。た。り。源。二。清。を。宗。を。た。り。や。り。よ。名。
 前。と。あ。り。と。け。の。名。ハ。よ。め。あ。り。は。て。も。お。お。
 ち。一。名。多。る。不。た。り。右。所。の。地。名。を。と。り。て。よ。小。新。成。
 小。新。成。太。所。ハ。新。成。太。所。山。田。よ。を。源。二。山。

五内隨書三

四

田原よりいへば今地名苗字元弘建武よりハ
 成功の事く終るをいへば代官の家の文紙に
 なるりし苗字をいへばはるはるね者も借上
 してを來り門つきりし人れ世を世としる
 者もなきは意なり。慈仁のなまよりて何事も
 舊き後よりいへばつる世をいへば上の一りを姓
 とし下より下の業の官名も何事もあつて人れ
 名くよりいへばおそくいへてきよりいへば上の一り
 姓をいへばいへばいへば世の中のうちありは
 志として成功の實りせ業のの序とせればその

といへば^正いへばいへばいへばいへばいへば
 事して今よぬといへばいへばいへばいへば
 何れとわらんといへばいへばいへばいへば
 志してやわらん世は俗名と稱さくいへばいへば
 いへばいへばいへばいへばいへばいへばいへば
 人の實名書らるるいへばいへばいへばいへば
 といへばいへばいへばいへばいへばいへば
 偽考とある人の此の漢文よりいへばいへば
 稱呼なりといへばいへばいへばいへばいへば
 朝夕ぬめいへばいへばいへばいへばいへば
 五

高五とあるを察り。その源杜少府をくわむ。八官名
とてその名をくわむ。其の唐人の名は。八雅と
くわむ。その俗をくわむ。や。と所の漢文をくわ
む。林呼の異名をくわむ。くわむ。文。

との俗名を成功のきく。をくわむ。きく。今昔物語。田舎
丞九の外。爵とくわむ。くわむ。今昔物語。田舎
人。爵。くわむ。くわむ。河原院。くわむ。女と
鬼。くわむ。今昔物語。今昔物語。くわむ。くわむ。
源波をり。又諸寮の次官。くわむ。其物。くわむ。
人。くわむ。某進。京職。修理。大膳。の判官。某内。内舍人。

くわむ。八除書。くわむ。内舍人。くわむ。守書府。と帯せり。物
くわむ。源内。源内。某をくわむ。くわむ。くわむ。くわむ。
きて。源内。源内。くわむ。くわむ。くわむ。くわむ。成
功のきく。くわむ。今昔物語。某蔵。くわむ。佐。木源三。梶
原平三。くわむ。くわむ。三。言使。三。くわむ。除波。くわむ。蔵と
くわむ。轉流。くわむ。下。源院の舍人。くわむ。くわむ。くわむ。くわむ。
土岐十。後人。くわむ。太平記。くわむ。くわむ。くわむ。某作
某。世。くわむ。くわむ。源。杜撰。なれ。三百年。未。世。あ
好。ま。ま。杜撰。は。き。く。源。杜撰。なれ。三百年。未。世。あ
ま。ね。く。く。な。れ。今。昔。物語。を。くわむ。くわむ。くわむ。

江戸人の名うとしを夫へつらぬりをはき又捕^{スゲ}拵^{ゲウ}をしり
 をし書まはしりーとらきわらへ阿細根佳をよみし人
 人の名しきこぬ事とをよめるなるおらうよはしり書
 事いふはあもなきていひこらきしをひい
 いふへへ中書王儀同三司をよみしあまのめりし文人
 とくもそれその人なぬを字といふおははくか
 ずしりはしりいえてす入てきこら源氏物語し女巻し
 夕雲のゆりてれ六位をいひしり一は字はくはれと
 二條の末院とて一は事ありてそれはさういふらひ
 しりいははるのわんしりいひてらるるはうはてはくは

から一はあはは君大學の元よありありのいひつるいひしり
 字しつきわらをしりありたりらと今の世より川
 とらきてたふ書しりしとじりとりやてはるなるはなは
 おくしりし持しめしとてその實はしり雅波津漢書あり
 をしりるは哉うらしてとら書しりしりしりしりこれ
 字はしりる二字をよる皇國のし多くハ一字しりて當三丈
 琳をよしりし姓とわけて二字をいひしりあはる事ありしり
 といはるの雅波津し一字しりつるしきあはるなるあはしり
 うしりてなぬ二字とのしをはくなるはしりしりあさは
 しりし義はしりなるしりかんげうしり流のし除て實名か

らぬ名なりといふ字といふあり。今昔物語。字を
 女字。淳股。字をいふ。うきとるん。この所の俗名の凡
 之。日本靈異記。字上田。三。多。多。多。字仲郎と
 いふあり。葉。乃。を。字。と。ふ。と。い。く。古。り。あり。一
 たりあり。五葉。字。仲。子。内。侍。字。并。内。侍。と。い。ふ。事。の
 り。ゆ。り。今。は。み。の。名。を。い。ふ。や。十訓抄。は。南都の舞師。の
 字。和。博。士。晴。遠。と。い。ふ。人。あり。宇治。拾。遺。は。ね。ど。人
 の大將軍。保輔。保昌。朝。臣。と。い。ふ。事。は。げ。す。ま。し。い。と。い
 ぬ。と。い。ふ。と。何。の。す。ま。ひ。の。ほ。く。す。め。り。と。い。ふ。お。き。さ
 ぬ。と。人。け。ら。け。の。ほ。く。あ。る。名。と。い。ふ。の。は。だ。と。い。ふ。字。
 へ。

ア。テ。その。美。加。れ。し。つ。も。と。と。本。義。を。ん。ん。又。日
 本。紀。は。億。計。天。皇。諱。大。為。字。嶋。郎。と。あ。り。と。よ。よ。
 彼。紀。漢。風。と。い。ふ。事。も。多。れ。と。と。その。例。も。あ。り。て。
 自。餘。天。皇。不。言。諱。字。而。至。此。天。皇。獨。自。書。者。據。舊。本
 耳。と。あ。り。と。と。や。世。紀。も。あ。り。と。と。し。き。と。志。漢。風。を。る。史
 も。あ。り。と。と。や。の。文。飾。と。と。實。と。あ。り。と。と。い。ふ。と。と。王。の
 名。も。あ。り。と。と。一。川。も。あ。り。と。と。の。お。き。れ。億。計。大
 為。嶋。郎。と。い。ふ。名。を。つ。り。諱。も。字。も。あ。り。と。と。い。ふ。と。と。
 ぬ。と。あ。り。と。

今。此。は。大。名。藤。本。と。あ。る。家。の。は。い。と。い。ふ。漢。家。の

陪臣が安主商人をいじねくへいきん。死して院号
 とつふお贈ふ。とあるをらうらう。らある學者を天子
 を替はることをいふ。うわらう。事よりふもき。ゆ
 何心なき者もこれときくはるてが。こき事よ
 みもふと。ゆく。おまねれ。なるての世の風俗をれん。
 心をしても家人をはらふ事。まら。まら。に櫻を
 事なる。とれ。天子を某院十二とや。まら。と。まね。ら。ふ
 わら。す。と。より。矣事。今。ら。く。これ。を。并。じ。ま。ら
 院といふ文字。は。方。つ。ひ。代。を。して。隣。つ。ま。きの。家。
 別。よ。一。接。なる。ま。といふ。中。和。院。去。言。院。勸。學院。學。館。院

をものね皆。い。る。と。施。業。院。之。便。なき。病人。と。並。て。瘞
 して。ら。う。る。不。悲。田。院。と。分。員。し。き。老人。を。と。並。て。養
 ひ。て。ま。ら。る。不。な。れ。院。とい。ふ。り。一。必。し。も。ま。ら。る。ね。事。い。ち
 ち。ら。し。獄。令。よ。流。徒。罪。君。作。者。云。々。毎。旬。給。假。一。日。
 不。得。出。所。役。之。院。と。ある。ハ。罪。人。を。く。不。と。し。院。とい。ふ
 こと。逃。亡。の。用。さ。よ。づ。い。れ。を。と。め。ら。り。て。一。か。ま。人。なる。不
 よ。ら。め。並。み。ら。り。は。れ。を。世。終。ら。家。の。別。院。と。い。ひ。ら。る。と。
 花山院。河原院。と。い。ふ。ら。し。よ。一。ま。ら。る。不。な。れ。を。下。れ
 里。第。一。院。とい。ふ。り。當。れ。し。て。く。て。陽。成。院。朱。雀。院。
 冷。泉。院。亭。子。院。を。と。い。ふ。と。ま。ら。公。家。の。別。業。と。て。

三ノノ

今代代々ともは下屋敷といふものなるうはやの意
 ありともあり一區^{カキ}なる也院といふ名もあるは天子
 の所追号某院とありとも位とありはせらるるは別院
 といはれは其をその事ゆへに事ハかてそのおハ
 其院の名とりて稱せしう崩れの後も從そのまゝ不
 変なりやとて之陽成院朱雀院冷泉院同軌院とて
 ともおはしし心^ナの名之具よしく某院^ナ天皇とやへま
 事とて大に違衡初トの家集よ朱雀院天皇冷泉院天
 皇とて多きはれときよしく便よすせとて某院の
 中せしはばめとてはるるもあられやとて事ハはれ

後一條院よりとて在位して崩れたりもなき
 院とのまかりなりとて考^{ウツ}むとて世のなまひとてハ
 一き朝廷の法^ミ制^ミもいづらひの多きを又凡人の法^ミを
 院号ハ撰^ミ撰^ミ大臣をてやとてなき人^ミの法^ミの法^ミとてちを
 つらしたるるその人薨せられて存る寺の名とありを
 稱する事ありを長るとは成^ミ寺^ミ殿^ミ實^ミ然^ミとて徳大寺
 殿といふ教よその寺ハ院号なるもあつよつきて親家
 公と法興院殿忠實とて知長院殿とてやとて院と稱せ
 もありとて寺建るう源とて末の寺といはれり何
 の由きやハなきもはるるべき人ハみなち号院号賜る

とをわたり。その中よ。古と青丹の方多し。りはると。三百
 年。このころ。院号をお村く。なりて。二百年。あか。こ。ま。て。を。
 を。お。ち。ろ。号。も。し。し。の。あ。り。し。を。今。か。か。入。て。院。号。け。け。物。
 事。な。り。上。件。の。差。別。あ。り。て。天。子。の。院。号。へ。別。院。より。お。
 こ。れ。か。け。急。大。る。比。各。と。り。て。分。を。事。元。人。の。を。院。
 より。か。ら。ま。て。ん。す。入。て。佛。法。を。り。て。け。る。事。な。り。今。非。
 も。く。物。を。る。は。は。給。り。授。る。事。と。そ。の。か。り。く。を。て。
 幣。物。を。り。せ。る。な。り。一。中。と。後。き。を。き。急。せ。は。印。
 も。あ。り。て。貨。え。す。け。き。ま。る。小。商。人。農。吏。す。ま。い。佛。優。
 ま。て。も。ち。方。の。沙。汰。の。か。く。ほ。ね。わ。わ。と。げ。号。と。授。る。

い。急。う。み。を。り。る。一。を。り。て。り。と。り。き。寡。婦。の。案。
 の。未。す。じ。げ。り。り。を。き。る。も。例。の。世。号。授。る。佛。法。
 へ。い。ま。く。り。る。な。れ。と。松。栢。を。り。て。福。壽。を。い。ひ。り。き。
 こ。り。て。つ。ら。な。と。を。こ。る。事。り。け。り。な。り。松。替。
 上。と。い。つ。き。る。人。も。か。け。り。は。り。る。事。な。り。是。ハ。天。子。を。ま。
 わ。ふ。と。あ。り。は。れ。と。志。る。へ。き。人。も。賜。ら。ん。と。難。お。り。
 へ。き。事。な。り。と。何。と。り。の。人。より。と。き。は。や。り。限。と。立。へ。き。
 せ。り。を。く。け。り。と。その。限。を。く。て。と。か。り。く。上。を。
 一。わ。ち。の。人。情。と。下。り。し。も。ま。て。け。る。や。り。な。る。は。せん。
 かな。き。物。の。勢。か。り。ゆ。め。の。道。試。ま。れ。を。ほ。め。じ。と。郷。

版上人地下も、おおよそ、ついでに、人々、まゝ、
 たりし、は、し、も、い、度、は、は、り、と、い、ま、ん、大、名、の、端、に、
 旗、本、殿、も、三、千、石、の、り、し、じ、か、よ、の、人、と、小、寺、の、り、人、
 主、地、も、費、も、さ、か、わ、る、事、な、ら、ん、寺、の、建、す、も、ま、い、
 して、雜、を、し、又、祿、を、す、も、諸、大、夫、と、あ、る、人、々、の、
 中、に、か、く、れ、ら、ら、し、け、ぬ、旗、本、殿、も、か、り、す、ん、き、地、
 の、り、し、る、も、その、雜、費、を、も、ほ、す、し、り、し、り、寺、の、り、へ、き、
 地、も、し、れ、を、お、お、ら、ら、ら、し、又、土、地、を、り、は、ら、る、土、
 地、の、り、し、ら、る、旗、本、殿、と、ら、は、お、ま、り、格、を、し、し、し、
 准、擬、し、し、し、し、し、ら、る、外、に、し、わ、り、し、諸、家、の、陪、長、も、地、を、

には、志、け、し、け、て、も、あ、り、ぬ、へ、き、し、や、旗、本、も、な、き、
 流、家、人、流、し、て、い、ら、る、事、も、お、ま、り、し、て、土、地、な、
 き、陪、長、の、い、ら、る、ま、し、き、事、な、り、商、人、を、又、お、ま、り、
 せ、あ、り、も、す、ん、か、ん、ち、ま、へ、き、地、や、い、ら、る、い、ら、
 ず、き、事、な、り、今、ま、り、し、し、も、或、ら、る、所、あ、り、も、す、ん、
 十、今、寺、の、建、す、し、し、し、し、し、し、し、土、地、あ、る、人、の、院、
 号、は、く、り、雜、を、し、を、旗、人、の、地、と、い、ら、る、世、々、き、事、な、り、
 とも、め、く、僧、上、の、事、と、定、じ、し、し、の、寺、と、院、と、い、ふ、れ、
 一、區、を、り、い、え、し、よ、
 とも、り、し、人、の、い、ら、る、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、
 人、の、

壬戌陳業三

十三

性よりそ有るれを中よ。これへぼろなき死紅葉
 よつてしはあくのちささありて歌物流も常多う
 ぶをらひ物の事よふたれふん地てとほく物も
 といはふら。はれとらひより人の情をなすもの
 羊の養のこあ子國とらろはせしとい少くあふ
 うまき物とてそを何某招くはすしあくやま
 けといからくよ。

真ハ何よりも鯛より。神代紀赤女比有口疾云々。
 後赤女鯛真名也。一書云赤女有口疾不來亦曰
 口女有口疾即急召至探其口首所失之針鉤立得

於是海神制曰。你自今以後不得預天孫之饌。即以
 口女真所以不進御者。此其縁也。とあり廿一書
 の文も口女う赤女うてよ。一書やうなれと。又の一書は
 赤女とと赤鯛とと鯛女ととあり。又古事記。海赤
 鯛真とありて本居先生の説く。仲良紀。海鯛真を
 といとあるを據て。鯛の事なりとあり日本紀
 のみとてま川といの事とてこれに依る。さて
 まつねやわんかうといをくうまきものくらじ
 き。赤女なり。赤くはれとて先服の理髪の大。干鯛
 をもあまあり。とてはね赤まかきく。くく。心

一きき事いぢよ、瓜の如くふ事あり。尾張國なる部
 の浦く、葉の如くいす。海をうらそとる魚、ルヂス、ヂチヂ
 イチ、アカメ、クヂメ、ホシメ、イサ、真をむ多し。うらそとる魚
 葉の如く移れよ。うらそとる魚、味淡く、毒なき小魚といひ
 物よといひ、いすめと除てその降ハ、ホシメ、イサ、ホシメ、イサ、
 けよといひ、葉の如く又移れよ。いすめといひ、ホシメ、イサ、
 さよといひ、葉の如く又移れよ。いすめといひ、ホシメ、イサ、
 万うらそとる魚、漢人魚市の、イサ、イサ、イサ、イサ、イサ、イサ、
 赤いといひ、いすめといひ、ホシメ、イサ、イサ、イサ、イサ、イサ、
 もきよといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、ホシメ、イサ、
 赤女といひ、女といひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、ホシメ、イサ、
 赤女といひ、女といひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、ホシメ、イサ、

やして赤鯛といひ、又めいひ、いすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、
 後のあつた、いすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、葉の如く移れよ。
 わく、いすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、葉の如く移れよ。
 もいすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、葉の如く移れよ。
 く、葉の如く移れよ。いすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、葉の如く移れよ。
 きに、いすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、
 きき方言と接ボをいす。やしてあつた、いすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、
 とめいひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、葉の如く移れよ。
 なる、いすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、
 けて又書いす。いすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、葉の如く移れよ。いすめといひ、

女と藻とを治めしとて其故を撰ぬる程の事名の
 中より一程とてよとありき故の名とせずかといはれしを
 けりていふなり赤女といふは大小を混して口女と因縁あり
 まきれらるるては鯛女と鯛の似る女といふ事とてすて
 ぐさひとらり赤鯛海赤鯛魚ハ形さひに似てとれとこ
 小に赤き魚の名赤鯛といふていふを赤鯛といふはさうも
鯛といふていふていふていふていふていふていふていふていふ
ていふていふていふていふていふていふていふていふ
 赤といふはちよ湯なり赤女鯛魚名也とわるとすか
 いかんかきし是もかきせて鯛の本とせしめしれしは鯛魚
 也といふわらへきよ名の子とていふていふていふ鯛の一程

とらぬられさるるや赤女と藻魚の属して鯛とハル
 てはそれらおかし形の似れまきれしす日本
 紀に々々博土とて郭璞孫敬流もわら受誓人魚
 舗もあはれはれはししりの信ありすしとて
 りわたりし篇も世にさしありきまのまはは
 奉らぬといふと死をいはのあまりすといはる
 うまのれ鯛とていふも神代紀の赤女
 といふを鯛のまをわら受をん
 鯛魚のいしらさきと白うねのまといはるは是
 をけくといふその次におろし六月七月のわらうりす

一、其年、こゝろをなす。年つこゝろをなす。ぬ。
くけい、くま物、犬きく、なるよ、さういひて、名もく
も、ふ、其年、つらても、書生との、まの、し、め、つ、ん
なく、衣、を、ん。

古人、れ、名、よ、め、ふ、真、名、鮪、鱈、魚、入、殿、赤尾ハミの名、ナミ
今の世、う、お、さ、う、り、う、真、名、と、そ、れ、う、い、は、ら、る、め、さ、う
を、一、や、時、の、う、つ、り、う、う、つ、て、う、い、物、の、好、悪、う、う、
本、た、れ、と、又、し、め、よ、り、て、け、や、と、一、真、の、い、念、う、
あ、わ、わ、木、免、は、き、き、を、う、す、け、り、あ、り、て、お、い、一、名、な
は、も、さ、り、難、し。

中、は、漢、子、連、と、カ、ス、ム、ラ、シ、ト、と、て、真、名、を、り、う、ん、沈
う、あ、か、と、れ、い、う、と、子、の、字、と、ス、と、呼、と、唐、音、う、と、も、禅
家の僧、多く、入、宋、して、う、つ、せ、う、着、之、日本、紀、え、う、け、れ
い、財、父、う、う、も、は、ら、る、あ、わ、り、よ、わ、次、を、う、け、る、も
沿、革、と、う、う、大、切、し。
赤、え、う、い、あ、ゆ、う、れ、れ、片、面、と、う、成、と、う、う、う、う、れ、と
赤、き、お、な、う、う、う、エ、と、い、て、あ、り、わ、ん、き、と、赤、え、う、い、
い、事、し、う、事、な、ん、う、う、う、う、う、り、あ、り、一、赤、陸、奥、へ
お、う、う、し、い、え、の、部、う、て、片、面、の、色、漢、黒、き、物、と、う、
書、を、け、と、い、い、け、う、う、り、て、端、は、美、お、わ、ひ、や、う、よ、ふ、く。

鑑の末更し又思し。赤えの赤き 仙臺あり多うも油也。
この題なり
 土人ハこれヲカウカイト云ハ。これ尾えして。それハ對入て
 赤えといふ。ちやへて。おひよる。好もき。乃そ。尾張。必
 藤原。三河。四。各一。万。ち。と。て。ば。や。ま。え。と。い。わ。れ。わ。り。や。
 必。あり。や。か。と。思。は。れ。り。と。い。ふ。も。多。う。ぬ。り。や。
 と。れ。り。の。カ。ウ。カ。イ。の。事。を。さ。う。り。
 論語の。我。不。復。夢。見。周。公。と。い。ふ。周。公。ハ。周。王。の。こ。と。き
 人。と。い。ふ。事。ハ。孔子。之。後。復。無。孔子。の。孔子。と。お。す。城。條。ハ。
 孔子。礼。樂。の。事。を。い。ふ。事。と。い。う。も。ち。き。か。ね。り。て。周
 公。の。こ。と。き。人。云。い。は。り。礼。樂。再。つ。る。も。ち。い。き。よ。り。い。ひ

事。は。や。う。と。ら。人。を。夢。う。こ。よ。え。す。の。の。う。と。之。後。の。字。
 復。無。孔子。の。事。と。い。ふ。然。を。若。り。ハ。は。い。ん。け。し。國
 公。を。い。め。こ。ら。ひ。い。う。半。お。い。氣。力。喜。て。ま。さ。ん。千。の。の。々
 い。い。え。ん。既。わ。る。も。人。情。よ。う。と。け。い。の。路。を。い。え。
 ら。は。る。と。述。懐。り。き。い。ふ。も。ち。野。人。の。行。路。よ。り。ま。く
 かり。ふ。顔。之。氣。力。喜。へ。て。む。い。う。も。長。は。ま。さ。い。い。ふ。
 け。り。や。も。い。復。士。と。名。を。い。う。周。王。と。周。王。と。い。う。と。
 と。國。と。い。う。もの。と。い。ふ。もの。と。い。ふ。もの。と。い。ふ。もの。と。い。ふ。
 その。人。論。語。人。を。敬。み。ら。ひ。ま。て。若。代。の。規。範。と。な。り
 へ。ま。事。を。書。き。か。き。う。と。い。う。事。お。い。て。や。め。ん。す。は。

いふべきは世に於て何の教も入らざるべきを論
論語をばけりなき事を見たり。若し孔子の
の忠臣なりや。

子夏曰孝と云い何れ孔子の云ふ也難有事弟子服
其勞有酒食先生饌曾是以為孝乎との云へ也
好之の事難と云いこれこそは孝と云ふこと
いとまじき事と云い孝の事と云ふ事難儀
そとよりこれより下は先達の況もいと次す人
包と云い包と云ふ事と云ふ事好めり常の情なる中
親を孝と云ふ事と云ふ事いとまじき事と云ふ事

包も包の事と云い何れ親を孝と云ふ事と云ふ事
と云ふの事と云い何れ親を孝と云ふ事と云ふ事
の事と云い何れ親を孝と云ふ事と云ふ事
らぬ死をいひていふ事と云い何れ親を孝と云ふ事
たわらまし何事と云い何れ親を孝と云ふ事
そとより親を孝と云ふ事と云い何れ親を孝と云ふ事
そとより親を孝と云ふ事と云い何れ親を孝と云ふ事
山梁雌雉時哉と云い何れ親を孝と云ふ事
のいきまひと云い何れ親を孝と云ふ事
そとより親を孝と云ふ事と云い何れ親を孝と云ふ事

眞惡不食とわくお照し思ひなりけりけりしや
 りきじ難くそといふわらふふのふれはる幸あま
 しきまわん文一ををのけをえらぶきこの
 をふあう可あやふくしを流るる路とあま
 しき人のそのけふあやふれりけりけり言と千載の
 ねいけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

あら世にあらあまきききききききききききき
 長川の根位おとしや五つ入るの木のまゝまゝまゝ
 しきしきしきしきしきしきしきしきしきしきしき

土のひらり余のしきしきしきしきしきしきしき
 りしきしきしきしきしきしきしきしきしきしき
 しきしきしきしきしきしきしきしきしきしきしき
 物はしきしきしきしきしきしきしきしきしきしき
 いそかほんしきしきしきしきしきしきしきしき
 長し何れしきしきしきしきしきしきしきしきしき
 長し何れしきしきしきしきしきしきしきしきしき
 りしきしきしきしきしきしきしきしきしきしき
 きしきしきしきしきしきしきしきしきしきしき
 ちはのあましきしきしきしきしきしきしきしき

あふ長けくはいと本の中にもあひつていふれを
しあやしくおみゆはは家名をさし里の名くら
しと書もやうもあしがまはなれにむあむく
つとま書しとてあまのさあひあ

ねのふかしのさしあまのほはは母とてはあまの人の
しはしとておみゆ人の絶りなれいづとあひ
をものをも下ひのはるあくるしきよなるもなれ
みしいやう世しりあひしきあひははあれのさしと
雲とらふとあみあはれなるとあひははれとほく
まうめあはる部とあつあはるはははとあまを

け方もたさいなるとあ規いづとあまのさしと
うしとてあまうとてあひあはれとあまの降波ま
はあひやう庭の池水をさすもあが表

すしとてあまをさしあひあはれとあまの庭の池
うしとてあまをさしあひあはれとあまの庭の池
下てけけくはあ月の廿日あはれとあまをさす
あまあはれとあまをさしあひあはれとあまの
しははあまをさしあひあはれとあまの

降西のいからさしあまをさしあひあはれとあま
あまのさしあまをさしあひあはれとあまの

三三

三三

めいりうあつそじしなねはけたらあかも入くあや
 みとんかーかなーじぬてあめのはららやーなれあま
 ーまふん保かつのそあかんえの木何事とハ
 かりーもあつじう月のはーかりかりーや
 くとあつてあねえーとーあかあつーあかあ
 未じまハ入口りうあ雲とんではなかつーあかん
 秋あかあかんじうとーのきく木葉よりと保
 かりーや

やよま秋さうじんれ神をんあ色をあん秋のさうなく
花 枯 梗
 しをふぎらうーのさあかん

ーあつーあかんかひーををせままてーあかん
 のきらく枯ーたれ保しとめー人とあやあ
 いてあかんらんじんさもひのとはああかん
 春木とまう袖やれー匂いさうはらかんじあの木下
 ーれと世のつねなれ竹子せうや
 くれやさ子さうりてあかんあかんあかん
 ーれと世の常かなたなれーあかんあかんあかん
 さうてくすくーのあかん何あかんあかんあかん
 かん中ばはらかんーあかんあかんあかん
 ーれとまあかんあかんあかんあかんあかん

いすゝふいふしうかぬしういすくおをしこのそ
せしめよわかあし

大臣以下恭愷以上を宰相なりよ恭愷以下も宰相
とぬ八宰相と規模とするゆゑに五位五位ハ大夫なりよ
五位以下ハ大夫といふと大夫と規模とするゆゑに宰相ハ
よく人のいふしうる事なれハ大夫ハ不審しうる人なり
大臣以下六位も昇殿しうれ家もつりハ殿上人な
るをさしてハ三と規模とするゆゑおしうせてハ殿上人と
いふ位ハ後ハ後使のよめハ昇殿をもしうりす化とい
ふれしおしうりて殿上人といふ位五位五位のいふくハ

殿上といふしうと侍の位とをいふと規模とするゆゑお
しうせら名をなれりハ恭愷と宰相五位と大夫といふ也
おしうしうなり

宰相以上と上つしうハ記録とよ日の上の事をうて
すしうの事と上つしうハ事とありしうをさしぬとも
この法なりしうとさしうとせし事とありしうと行
ふの規程とせし事とさしうはその上と上といふぬ
物なりしうと上とアといふハ上等部とてさしうといふも同
ししうといふハ大臣といふといふもハ大臣といふも上
それとの中ハ第一の上といふも

百官ハ百座^手して座と百くしりも交りし事之座
 ハ百官の森入して事とりたえ古き流も百官の座
 と交りしことしきとこれと百と百官の百の字と
 交ハ用の終りてたを交事とこれと流はるる事
 百官の事と百座と交事とこれと流はるる事
 此らわらわ流はれしはひりてゆき事の終ハ月一
 を交沖と潤をこれと流はるる事雄略天皇ハ教
 百敷の大官人ともせふ彼はすてハ百官はれし事
 ことしきとこれと流はるる事孝徳天皇ハ時
 官とゆらしりてわら日本紀の文よちらわらるる

代ハ制度の改りし漢様の官くは始
 是と事しり是よりはき官くは
 改む世々の改作人執りききしり
 大正隆大は長もは自りもわらやせん
 つる百官はわらてその事わらるる事
 事のりし事何の子細わらはれ雄略天皇
 ハ志けりて神武天皇の流はるる事
 けりてみりて流はるる事崇神天皇
 流はるる事六十八年までつらき事
 此世をれり百交といはれし事

一、めし、残珠宮といふ事を、事といふり、と成は
 ず、まゝに、まじり、あつ、と、師木といふ、おの、取、百、と、ま、ま、こ
 り、し、圓、八、百、の、石、り、と、堅、め、さ、る、城、と、い、ふ、事、を、わ、り、と
 之、り、お、れ、と、河、の、流、は、万、は、け、り、き、こ、れ、と、何、れ、の
 味、と、も、石、り、と、き、つ、つ、ね、あ、る、ま、ま、き、き、取、り、ま、り、と、大、宮、
 ま、う、り、ん、事、い、く、百、と、も、取、多、き、事、と、取、り、ま、り、と、大、宮、よ
 う、さ、る、か、い、と、い、く、千、數、八、千、交、り、取、多、く、い、ふ、入、き、と、百、と
 一、も、う、き、れ、い、い、と、百、と、り、の、石、り、と、大、宮、に、築、り、入、き
 ぬ、と、也。

わ、む、の、と、し、と、つ、つ、々、あ、つ、ね、の、つ、飛、と、ほ、く、と、事、に、ま、り、
 況

い、ま、と、洋、を、い、次、万、法、あ、つ、と、と、圓、八、百、と、玉、八、明、玉、と、し
 い、と、し、の、ぬ、て、の、ぬ、い、と、ま、ま、と、魚、い、と、も、と、と、倒、め、と、し、こ、と
 本、り、明、と、あ、つ、と、い、ふ、事、あ、つ、と、い、ふ、事、軒、舞、考、あ、り、き、ぬ、の、
糸、と、倒、産、を、い、わ、る、ハ
と、ま、あ、つ、と、か、その、中、上、現、在、神、荒、ね、取、れ、な、え、と、い、ふ、あ、つ、と、い、ふ、
呪、と、い、い、か、つ、る、と、い、わ、ま、り、つ、つ、と、い、ふ、こ、と
 の、い、ふ、事、と、し、て、長、く、と、き、流、あ、れ、と、迂、遠、と、い、ふ、あ、つ、と、ね、
 り、と、金、八、五、中、と、り、ま、ま、と、い、ふ、事、の、義、と、せ、り、や、け、と、い、ふ、事、
 あ、れ、の、き、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、
 き、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、
 を、し、す、て、金、銀、洞、洪、何、り、ね、も、あ、れ、と、岩、山、の、い、と、木、の
 中、よ、生、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、
 處、り。

ね取れしを以て舎根の義として流され根りて穩す也

一況よ土生念の事と
いふ事たり
山明井りふよわく玉八璞いしきりけり玉

こそを抵ごりてこころ故もいふあらんね八鑛いしき銀

けり金こそは繼りてきこふ故つれとらるあつ玉ハさき流し

ありしやあつねさ今やげめせん世ニつらけり

はまらるるおとれおとれてるはつらばれとら

れこころをりおとれ分けりけり後を執するよわあおの

つらとまじし人ふけり流しきをいしを控すれりあむの

そ半の松河あつたおの玉の松河けりよ用る事なき河ふ

れりこころをりおとれ事くしやわりおとれいひて河の事

をばらんとすふる人ね女つらけりてけりてり

ていうて新しき流いしとんするは徒なる力いれんを

よもあたらきすして河の源とす事とれりこころあり

あつてりけりいしとつらてん天の事とをさしりて流し

多ふきこりれり天の事とをさしりて流し多ふきこりてあ

つらとすそれハ云この義といふそのまゝも原とすやん

わらきいはれんともあつてん事とをさしりて流し

何とすといひかつらとふり外たし思ひは言流れ

流ハ窮けりて解する難きハさしりて流しとて天ハ月

のゆくも善ハ松竹のこころさすふ事とをさしりて流し

文道

三

を何とあやしくして。此よりして。うらめきすめきおのり
故先せんよの延納のりこのます。園子と古学
若くし流す。は事。は。も。要。す。と。ま。り
およくして。事。あり。い。つ。う。世。上。の。事。を。い。れ。と。ま
回。ら。て。い。れ。人。無。い。と。う。人。す。世。を。い。れ。と。ま。り
み。ら。と。ま。す。い。つ。う。終。り。は。と。ま。り。遷。延。す。り
い。ふ。け。り。を。い。は。や。れ。事。の。こ。り。つ。う。故。和。字。と。い
う。の。物。を。い。は。す。は。は。は。あ。は。は。と。い。ふ。よ。

物の名をいふまじく。新しき。ありて。言。は。れ。り。と。め。て。い
そ。う。の。名。を。何。と。い。い。け。り。め。は。は。は。と。い。ふ。よ。
め。ら。し。て。ま。じ。く。い。は。す。は。は。は。と。い。ふ。よ。と。り。あ。り。て
つ。う。の。い。ふ。中。に。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。
い。い。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。
落。之。蛤。何。の。名。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。
い。ら。し。て。解。説。を。ま。す。守。り。ら。れ。ぬ。と。い。ふ。よ。
取。ら。れ。ぬ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。

本居先生の古と名遠く。い。ま。の。世。の。い。つ。う。と。い。ふ。よ。
と。ま。り。と。傳。言。て。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。
解。て。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。
は。は。は。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。

おもむきいづるありてめけしむる世の唐詩選とく
さきういふみずの四字解のこといひて蓮の答よほ
ゆして十二の天樂きくことくふゆねのまこと
いふも薄きる書ふるとぞくく人の心しじくは
人のをらんみのまて子

題素氏別業

主人不相識偶座為林泉莫愁漫買酒囊中自有錢

御亭主トハコソマデマダオチカッキテナイソレニカヤウニヒサグテ
林泉 不相識 偶座
丸きエルト云モヘ比御下屋敷ノ風景カヨサカラチヤソレチヤニコレハ
漫 莫愁
又ツタニ酒ヲ買フガヤトテ成マイウクカリナサレテ酒買錢バカリ

中庸ノココニシゼントアルモノダヤヨアハハアハ

うとをいふはくありの人といれ人のつれを四字解の
いづくつてなきとせよ遠くをすやくさき
鮪も志馬とく一物二物洋を次いもう似てわねお
うしと鑑定しむが真市は秘流なりいふまのまを
空んけりし矣をすくとけはくありのまき難きおのま
えとをすくねんまをくんとすくふりあじ陸奥の海
うり次金華山のおり大倉りふ里りやりし家あり
漢人よまのいを取つひのうまはまをいづく
まをいづくも同ねと春鮪らひ杖まをいづくま

古事記よ建内宿禰命率其太子為將禰而經歷於海及
 若狹國之時於高志前之角鹿造假宮而坐爾坐其地伊
 奢沙和氣大神之命見於夜夢云以吾名欲易御子之御
 名爾言禱而白之恐隨命易奉亦其神詔明日之日應奉
 於濱獻易名之幣故其且幸行于濱之時毀鼻入鹿與既
 依一補於是御子令白于神云我給御食之與故亦稱其
 御名跡御氣津大神故于令謂氣比大神也亦其入鹿與
 之鼻血具故号其處謂血浦令謂都奴賀也とある入鹿
 けに戸くときいりぬぬ之新撰字鏡に鮎字といふことあり
 たりよれと志いすらけ類して因のこ赤くまといひてト

水之流るる小家とて志意とてのりてわきま小洪家の小女とて
 下すれいぬの鼻や尻とて幣とけりて追見遠志とて
 物名への幣とて大食の與とてまつりたうんととて
 すらめとていぬわとてきよ比の名よれとてり真とてけり
 入念とて一飲とてあつた神のいふ人測とていぬのふあり
 法少納言の枕とてふいといひ書かぬとてまきおとすこと
 のなきにわねとて花とて補とてたひあひあ。すも免
 云遊はけとていそきとてはけりりあつとてけりあつとて
 息のこわへとてまうらとていぬとてけりつと湯あひ
 涙のまきとてけり折とて鏡のい鮮とてきおの申とてけ

地味家と浮わえて焼てはらんのいーねきいーはらんと
 わらんと二杯くふらふかだのーはらんと方々ーなほの指
 ろよーいーいひいて涼ーき凡の何くまつあおと七窓の
 樹る味飲食すれあーり。はらりし焼と。こころ
 松とと。大根。ね。

享和二年十二月五日降白既尽姑容業ノ春天垂帷於共川在
 園偶有白波寒心之患秋日鳴鐸於市谷野居難念紅卷撰
 面之煩未達君平卜居之意や似孟母擇隣之所為者欤
 石原 亮 人 主 山 明

後撰和歌集新抄

全部十五冊
別記を冊

此書と古人真淵契沖本居其外徳夫人の言説を
 悉く参考のう人先人未幾は自考を師へ古實
 規式をけし先詞の鏡ゆふをはのとの人なりと師て
 毒くと記さゆしそ互世を大平翁石原正明先生等の
 説ありひよ考り関をくそ人そあらしはどひ
 あり

尾陽書肆

東隣堂 欽白

